



# 布施だより

## 《 旅立ちの日に ～「凡事徹底・・日常の積み重ねの中に」～ 》

\*写真は17日に行われた「3年生を送る会」からです。

卒業証書を手にした皆さんは、学校の顔となり、後輩たちの目標となる存在でした。

生徒会活動では、生徒会スローガン「『恕の心』～つなげよう思いやりの輪 広げよう無限の可能性～」のもと、学校全体を吹き渡る、温かくさわやかな風を吹かせてくれました。

とりわけ深く心に残っているのは、皆さんの自分の役割に対する誠実さでした。例えば、銀河祭の前日準備で、イスの間隔をティッシュボックス1個分と決めて全校分のイスを整然と並べてくれた3年生がいました。おかげでどこに座っても同じようにゆとりのある座席ができました。片付けの時には、大きさが様々な展示幕を、一枚一枚心を込めてたたみ、来年度困らないよう丁寧に棚に収めてくれ

た3年生がいました。こうした目立たないところでも真心を込め、自分の役割を果たす姿は、その誠実さが本物であることの証でもありました。

一人一人が一隅を照らす存在として、それぞれの役割や立場で自ら光を放ち、学校全体を明るく輝かせ、新たな文化を根付かせてくれました。(中略)

さて、今年度、本校では凡事徹底を大切にしてきました。それは凡事徹底こそが自分の可能性を引き出し、目標や夢を叶えるための生き方であると考えているからです。

「特別なことをするために、特別なことをするのはではない。特別なことをするために、普段どおりの当たり前のことを当たり前にするのだ。」こう言ったのはあのイチロー選手です。彼はこんな言葉も残しています。「小さなことを重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道」

また、イエローハットの創業者である鍵山秀三郎さんは、こんな言葉で自分自身の人生を振り返り、自分の可能性を最大限引き出す生き方を教えてくれています。「今まで、誰にでもできる平凡なことを、



誰にもできないくらい徹底して続けました。そのおかげで、平凡の中から生まれる、大きな非凡を知ることができました。」

心と行為はつながっています。日常の小さな一つ一つのことを大切にするという事は、自分の内面を整え、育み、豊かにするという事でもあります。そして、日々こうしたことを積み重ねていくことで、夢実現の道が開かれていくのだと思います。

物事に真心を込める誠実さ、感謝の心、謙虚さ、他者への思いやり、ぜひこれらをいつまでも失わずに持ち続けてください。このことが必ずや、皆さん一人一人の人生の節目、節目に、皆さんを明るい未来に導き、幸せな人生をもたらしてくれるはずです。

平成 27 年 3 月 19 日 篠ノ井西中学校長 西澤道生

～「卒業証書授与式 学校長式辞より」～



## 《 祝 平成 26 年度児童生徒教育委員会表彰 ソフトボール部 》

昨年度に引き続き、ソフトボール部の皆さんが、「平成 26 年度 児童生徒教育委員会表彰」を受賞しました。

教育委員会表彰の趣旨は「全国規模の大会等において、特に優秀な成績をおさめた児童生徒の皆さんの栄誉を讃えるため」とあります。ソフトボール部の皆さんの日頃の精進と、全国大会第 3 位の実績が認められたものです。

近隣学校では「信里小学校緑の少年団」「裾花中学校女子バレーボール部」「長野西高等学校バトン班」「長野日本大学高等学校弓道部」等の小・中・高校の名前が連ねられています。

表彰は 3 月 24 日 (火) 11:00～、県庁講堂にて。当日はチーム代表の生徒が参加してくれます。

本当に、おめでとうございます。



## 《 今後の部活動について 》

各部活動では春からの本格的な活動とこれからの大会や発表の場に向けて、一生懸命練習に励んでいるところです。さて、県中学生期スポーツ活動指針を受けて「今後の部活動運営について」を昨年の 10 月 30 日付けの「学校通信～布施だより～」でお知らせしました。ご理解とご協力をいただきながら現在、試行期間として冬から春のシーズンを過ごしております。この試行を実施してきての、各部活動保護者代表の皆様からご意見をいただく会を 2 月 27 日 (金) に開催いたしました。ご多用の中、30 名ほどの各部活動保護者代表の皆様にご参加いただき、ご意見を伺いました。

○夏の大会に向けて練習を増やしたい。休日練習の時間の制限を緩めて欲しい。練習の流れ、雰囲気などもあるので。

○延長部活の日の送迎について、西中に近い家でも送迎が必要なのか。家庭の判断に任せても良いのではないかと。

○練習時間(平日、休日ともに)や下校方法について、部ごとの判断はできないかと。

○冬期や土日の活動の制限による活動時間の減少は、子どもの要求に合っていない。活動量が不足している。子どものクラブチームへの流失にも繋がっているのではないかと。保護者の同意のもと、活動日数の制限を緩めることはできないのか。

○部活には教室での学習や生活とは違う学び、心の成長がある。朝部活があるからこそ、規則正しい生活が促せる。

いただきましたご意見を参考にさせていただきながら、4月からの部活動運営については、これまで行ってきた試行を継続していこうと考えております。今後も年に1回程度「スポーツ文化活動運営委員会」として、保護者の皆様のご意見を伺いながら生徒にとってより良い部活動運営を行って参りたいと考えております。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

## 《 東日本大震災から4年を迎えます。 》

東日本大震災から4年を迎えます。4年前の2011年3月11日午後2時46分、宮城県沖で起きたマグニチュード9.0の巨大地震とそれに続く巨大津波によって、1万数千人の方々の命が失われ、いまだ見つからない数多くのご遺体があります。そのかけがえのない命に深く心寄せ、哀悼の意味を込めて、11日（水）清掃の後、全校の皆さんと黙祷を30秒間捧げました。

3学年の諸君は公立高等学校後期選抜受検日が昨年引き続き、3月11日に重なりました。この偶然と必然に思いを巡らしています。理科と英語の合間の25分間の休憩時間に4年前の14:46に思いを馳せることは難しかったかも知れませんが、きっと家路についた受検生諸君は、ほっと一息ついた頃、4年前の震災と、4年後の今と未来に関するこの日のニュースに触れ、自身の受検と一緒に振り返ることになったでしょう。大切な受検と重なる3月11日、若者が社会とつながる大切な一日になりました。



## 《 別れを<sup>つれ</sup>慎む 》

卒業を控えた生徒と先生の生活ノートを通してのやりとりを紹介します。

○今日の清掃は、3年生のみんながいなかったのととても大変でした。2人だけで掃除しました。

（時間が）ぎりぎりだったけど、間に合ったのでよかったです。

○ありがとうございます。3年生は後期選抜でしたね。3年生が受検に集中できたのも、1,2年生がしっかりやってくれているから。すばらしいBack Up！そして来年は皆さんが周りに支えられる番なのですね。

また、後期選抜を終えた3年生の感想です。

○フ～、何とか終わることができました。これまで支えてくれた家族のみんな、学校の仲間たち、学校の先生方、気遣ってくださった全ての人に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。人事を尽くして天命を待つのみです。

・・・別れを演出してくれる生徒たちが、そして送り出される生徒たちが、大切な別れを体と心に刻み込もうとしてくれています。



「別れを慎む」という言葉があります。別れるから、終わるから、もうどうでもいいやという意味ではありません。別れに向けてしっかり心を寄せて、準備を怠らないこと。そして別れの寂しさや孤独感にきちんと向き合うこと。そこから新たなスタートの節目を迎えること。そんな意味が込められた言葉です。

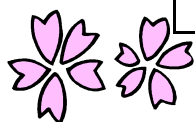
17日に1,2年生の諸君が企画運営してくれた「3年生を送る会」がありました。3年生から引き継いでいこうとする「任せてくださいっ！」という気概と、「よろしく頼みますっ！」というふたつの気概が込められていました。どこまでも飛んで行きそうな大きな気球を描いてくれた美術部の皆さん制作のステージバックに、『ありがとう』を伝える合唱部の7人の皆さんのアカペラに、「絆・感謝」を『ひまわりの約束』に託した吹奏楽部の皆さんの演奏に、たくさんの表現力で想いを伝えようとしてくれた生徒会企画の寸劇に・映像に、そして在校生からの呼び掛けと合唱に、自信に満ちあふれた卒業生の合唱に、・・・温かい思いの塊として交流し合えた、そして別れをきちんと慎もうとした、目頭の熱くなるひと時でした。



平成26年度末の人事異動で転任する先生方をお伝えします。



| 氏名   | 教科等             | 転任校名等       |
|------|-----------------|-------------|
| 武井礼子 | 美術              | 長野市立信更中学校   |
| 坂口岳春 | 理科              | 長野市立篠ノ井東中学校 |
| 北澤直樹 | 保健体育            | 長野市立川中島中学校  |
| 宮崎桂子 | 数学              | 東信教育事務所     |
| 井沢誠  | 英語              | 長野市立古牧小学校   |
| 新井恒司 | 理科(ブラジル日本人学校勤務) | 小海町立小海中学校   |
| 大塚正文 | 数学              | 長野市立川中島中学校  |
| 矢野竜士 | 理科              | 長野市立犀陵中学校   |
| 伊藤雄太 | 数学              | 飯田市立鼎中学校    |



大変お世話になりました。ありがとうございました。



「卒業ソング」にちなんで・・・「♪僕らはきっと待ってる 君とまた会える日々を♪」で歌い出す森山直太郎さんの「さくら」があります。歌詞は「♪さくら／さくら／ただ舞い落ちる／いつか生まれ変わる瞬間(とき)を信じ／泣くな友よ今／惜別の時／飾らないその笑顔で／さらば友よ／またこの場所で会おう／さくら舞い散る道の／さくら舞い散る道の上で♪」と最後が締めくくられます。

布施五明の桜はもう少し時を待たなくてはならないのですが、茶臼山に見守られての中学校グラウンドから桜吹雪舞う中での美しい校舎が、今から目に浮かびます。

桜待つ空の下、「658のstories ～光り輝く永遠の思い出を～」をそれぞれ創り上げ、見事に自分色に染め上がった生徒諸君ひとりひとりが、溢れかえるような希望と夢を抱えて進級に、卒業に笑顔で向かっていきます。

そしてたくさんの可能性に満ちた4月を、ひとりひとりの若者諸君が迎えることとなります。

・・・・・・春がゆっくりと巡っていきます。